

評価日時：令和4年3月30日

会議名称：高知工業高等専門学校自己点検・評価委員会
数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

開催場所：高知工業高等専門学校

目的：令和3年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	B	全学必修科目で開講しているため、申請対象となる令和3年度1年生について、全対象科目の履修率は100%となっている。修得状況は、ICTを積極的に活用し、Google Classroom等を活用し、学習状況の把握に遅延が生じないように工夫している。
2. 学修成果	B	各授業担当者および教務委員会にて履修・単位取得の状況は把握されている。また、授業評価アンケートを実施している。本アンケートを確認する範囲では、受講した学生の理解度などは高く、学修成果があるように伺うことができる。さらに、履修者の総合成績評価は学内の学生成績管理システムにて管理され、クラス担任や教員と情報共有している。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	本プログラム履修学生に対して、授業評価アンケートを実施し、AI教育センターにおいて結果の集約・分析を行っている。また、アンケート集約結果は授業担当教員と共有しており、学生からのアンケート結果に対する担当教員からのコメントを集約し、それらを取りまとめ、受講学生に公開している。さらに、アンケートは継続的に実施する予定である。これらを通して、教職員のみならず、学生も自分たちで授業への理解度等を客観的に見渡すことができる仕組みを構築する。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	本プログラムに関わる科目は、すべて第3学年以下に設定し、履修および修得を促す規則としている。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	全学必修科目で開講しているため、関係科目の学年ごとの履修率は100%となっている。
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	令和4年3月末時点で修了者はいない。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	教育プログラムの内容および手法について、参与会委員から高い評価を得ており、期待されている。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。